

### (3) 粗灰分 ※通常は不要です

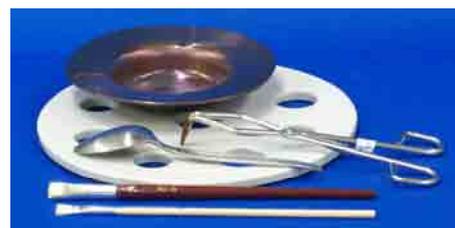
AD 可溶有機物量を抽出残さの灰分等から推定する場合、粗灰分の測定が必要になる。常法は電気炉（550℃・2 時間）を使うが、電気炉が無い場合はコンロで灰化し、測定結果を代用する。**灰分からの推定を行わない場合は不要である。**

#### 必要な器具

- ・ガスコンロ
- ・秤（0.01g 刻み）



- ・タイマー
- ・ステンレス製の灰皿
- ・ tong (代用可調理用 tong)
- ・薬さじ (代用可カレー Spoon)
- ・平筆 (2 本)



※平筆の片方は 5mm くらいで毛を切り、ハケとして使用する。

#### あった方がよい物品

- ・魚焼き網

コンロの炎が灰皿にうまくあたらない場合、魚焼き網を載せる、ゴトクを外す等、きちんと炎が当たるような工夫をする。



## 手順

堆肥を 5g 以上秤量し (A)、ステンレス製灰皿に移す



ガスコンロ (強火) で加熱し炭化させる



発煙が止まったら、ガスコンロから降ろし  
スプーンの背でつぶしながら混和する



スプーンに付いた炭は平筆で灰皿に落とす



ガスコンロ (強火) で 5 分間加熱する



ガスコンロから降ろしスプーンの背でつぶしながら混和する



スプーンに付いた灰は平筆で灰皿に落とす

・この 5 分間の加熱・混和处理を合計 3 回行う



ガスコンロから降ろし 3 分間放冷する



ハケを使い、灰を素早く  
薬包紙上にかき出す



灰を秤量する (B)

・発煙するので、換気をする  
・炎が付く場合がある

・あらかじめ薬包紙の重量を測定値するか、  
秤に薬包紙を載せてゼロセットしておく  
・時間を置くと吸湿するので素早く行なう

粗灰分は次の式で計算する

粗灰分 (g/kg・乾物) = (B × 1000) ÷ (A × 乾物率 (%) ÷ 100)

※ 水分 (乾物率) の測定に用いた試料を吸湿する前に使い測定した  
場合、乾物率をかける必要はない。